自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、事務所、玄関にも掲示し全職員が理念を共有、ミーティング時に理念に沿ったサービスが出来ているか確認している。	理念の実践例として、面会時、家族との挨拶ややりとりの中で利用者の状況を報告することを心掛け、家族の安心に繋げるなど、日常の活動の中で理念の実践に、事業所が一体として確認して努力しています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為交流は控えていたが、少しずつ地域交流を始めている。回覧板にて町内の情報を共有し、町会長、民生委員の方へのご挨拶や町会イベントの秋祭りや歳末パトロールの参加をしている。又、運営推進会議を通して、民生委員、地域包括とのやりとりを行っている。	運営推進会議議事録に出席者の意見をまとめ残している点、評価できます。出席者からそれぞれの立場を生かした忌憚のないアドバイスを得ています。町内会事業には積極的に参加し、また民生委員、地域包括との意見交換も行い、地域の一員として認知されている様子が窺えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同じ地区内の2つの他事業所の運営推進会議に参加をし、課題に対して意見等を挙げている。又、町内での交流などがご近所の方のご入居に繋がっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍では、運営推進会議計画をもとに、2ヶ月に一度紙面で報告をしていたが、現在は対面で再開している。会議も双方行き来し、交流も深めつつ、会議内での意見を取り入れより良い運営に繋げている。	家族、GH、小規模多機事業所、地域包括支援センター、民生委員に書面で情報を提供し、GH、小規模多機能の事業所とはお互いに会議に参加し合うなど交流を図り、得た意見を実践に生かす努力をしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービス向上に繋げられるよう、松戸市グループホーム協議会や松戸市ケア倶楽部より、市からの情報を得ることや意見を取り入れている。又、報告書等を市役所へ直接渡して話を聞くなど顔が見える関係作りを行っている。	市には報告書等を直接渡して情報交換を行い、同時にコロナ感染対策や認知症ケアの研修など、市からの情報を得るなど相互の情報・意見の交換が出来る協力関係づくりに力をいれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会が行う動画研修(アンケート回答)に全職員が参加。結果をもとに会議で身体拘束に関する知識と理解を得るため話合い、研修の内容を振り返っている。全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会の研修には全職員が参加し、事業所内で研修内容の振り返りを行っています。利用者の尊厳や自由を守る見守りや付き添いが利用者のストレスにならない距離感を守りながら取り組んでいます。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	人権擁護委員会（虐待防止委員会）の虐待の芽チェックリストを全職員で実施し課題を話し合い、全職員で虐待を見過ごさないよう努めている。啓発を目的としたポスターを作成し掲示。日頃から言葉遣いや関わり方も入居者視点で意識して行い、気になる事は職員間での声かけも行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者に成年後見制度を利用されている方がおり、後見人や協力人とのやり取りを行っている。又、オンラインでの研修に参加している。研修で学んだことをミーティングで伝え共有している。必要に応じて活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間を掛けて全ての内容を読み上げ、質問がないかを確認しながら、十分な説明を行い、理解、納得が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話やメールのやりとり、玄関や窓越し面会時に直接ご意見を聞く機会を持ち、必要な事柄は記録している。玄関に意見箱を設置していると共に、苦情相談窓口を設け要望、意見を伝えやすい環境を整えている。	玄関に意見箱を設置、苦情相談窓口を設け要望、意見を伝えやすい環境を整えています。電話やメール、玄関や窓越し面会時のやりとり内容を「要望・苦情 受付(対応)票」に、その後の経緯と共に記録しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや面談時に意見や提案を聞く機会を持っている。又、その意見や提案を管理者会議の検討事項に加え、反映させている。	年2回目標チャレンジシート面談を実施、時間短縮・業務効率化のための業務見直し・改善を行っています。例えば、職員の提案で近隣の洋菓子店で誕生日ケーキを購入するようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員と面談する機会を作っている。半年に1回チャレンジシートの内容を職員と共に話し合い、目標を決めることにより、職員のモチベーションを保てるよう配慮している。又、個人の悩みや業務の課題なども話し、必要あれば上席に報告し、面談している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のためのオンライン講座、資格取得支援金、合格祝い金等の制度がある。入職から職員にあわせた研修制度があり、参加できるよう勤務調整に努めている。 研修においては、ビジネスマナーから看取りについてまで広範囲の内容の研修をオンラインで行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市のグループホーム協議会の会員になり、同業者の情報交換、研修会等おこない、サービスの質の向上に繋げている。運営推進会議では他事業所に直接出向き、議事録を渡して会話を交わしている。又、通信などを通して他のグループホームの様子を把握することができている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前には面接を行う。本人が困っている事や不安な事を伺いながら、生活で必要なこと、ご要望などを確認をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に面接を行い、ご家族がどんなことで困っていたのかを確認し、本人の不安要素を分析し、本人の安心が家族の安心に繋がる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始に伴い、本人の心身状態に合わせた対応ができるように、事業所では事前の情報共有を行い、安心できる関わりを行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で共に洗濯物干しやたたみ、食器拭き、テーブル拭きなどの家事を行えるようサポートし、職員からはいつも感謝の気持ちを言葉にしてお伝えしている。集団のボール遊び、かるた、歌の会などのレクを楽しみながらお互いの活性化を図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに、本人の普段のご様子と一緒に、本人が生活に必要と思っているものや、職員から必要と感じるものをお伝えし、家族にもご用意して頂くなどの協力を得るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族と相談しながら支援に努めている。居室には馴染みの家具や家族の写真などの設置をし、本人の落ち着く居住空間を提供している。入居後も本人が大切にしてきた趣味の活動が出来るだけ続けられるよう努めている。	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、利用者・家族と相談しながら支援に努めています。例えば、入居後も利用者が大切にしてきた趣味の活動が出来るだけ続けられるような支援などに努めています。	利用者が出かけたいところへ行けるようにするにはどうすればいいのか更にご検討ください

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で自然と構築される入居者同士の関係を重視し、把握する様に心がけている。必要な時は、職員が間に入るなど、良い関係性が保たれるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去されての退去の場合、ご家族とのやりとりとして、1周忌のお花をお贈りするなど、事業所での思い出を振り返りつつ、何かお困りごとなどないか、ご家族との連絡を取るようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情から本人の思いをくみ取り、思いや希望、意向を本人に尋ね記録に残している。その経過をカンファレンスなどで振り返り、伝達や生活支援ポイントなどでの情報共有をすることで、一人一人の思いや暮らし方の希望、意向に沿った生活を支援できるように努めている。	アセスメントでは、日常の会話や表情や本人の思いの他、家族の意向、健康面、精神面、環境面について詳しい観察。聞き取り記録を作成して保存しています。これらの情報を職員間で共有することで、より一人一人の思いや希望、意向に沿った生活支援を出来るよう工夫しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族と相談しながら支援に努めている。居室には馴染みの家具や家族の写真などの設置をし、本人の落ち着く居住空間を提供している。入居後も本人が大切にしてきた趣味の活動が出来るだけ続けられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の会話や表情から本人の思いをくみ取り、思いや希望、意向を本人に尋ね記録に残している。その経過をカンファレンスなどで振り返り、伝達や生活支援ポイントなどでの情報共有をすることで、一人一人の思いや暮らし方の希望、意向に沿った生活を支援できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの意向を共有し、計画作成担当、入居者担当、看護師、主治医、訪問マッサージ、歯科医師、薬剤師などの専門職からの助言や提案をもらう。本人の現状から出来ることに着目し、本人の持つ能力を最大限発揮できるようケアプランの見直しに取り組んでいる。毎月のカンファレンスで話し合い課題と実践、評価を繰り返し行っている。	利用者にとって、よりよい介護計画を作成するため利用者・家族の意向を重視し、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成しています。具体的には、嚥下の状態を観察評価しながら、自力摂取することができるように食事形態を調整し支援しています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に詳細に記録する他、日々の申し送り、伝達ノートや毎月のカンファレンスで情報を共有し、本人の発言や生活リズム、心身の変化に気付き、食事形態変更の検討、必要時に看護に繋ぐなどの対応をしている。個別処遇に関しては、一定期間で評価を行い経過観察の必要性を職員間の共通認識としている。（生活支援ポイントの作成）		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や入院、退院時など必要に応じて勤務体制の変更を行い、送迎・付き添いなども行なう。居室内の環境整備やZOOMを利用した家族面会の支援などの柔軟な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、入居者ではなく、職員が近隣スーパーへの買い物、近隣の店でテイクアウト、町会の催し物等に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の向小金クリニックと連携し、入居者の家族の同意のもと契約し、月2回の往診、健康診断、健康管理を行っている。緊急時は終日電話連絡ができる体制にあり、搬送先の相談も行える。	クリニックと連携し、家族の同意のもと、月2回の往診、健康診断、健康管理を行っています。訪問歯科診療では、職員が口腔ケアのアドバイスや指導を受ける機会があります。協力機関として聖光が丘病院があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	マザアスホームの看護師と随時連絡を取り、看護師からの指示を受け、状況に応じた最善の対応を心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時に病院へ情報を提示できるよう準備している。入院後家族や病院の相談員と連絡をし、退院がスムーズにできるよう関わっている。状態把握、情報交換を行い、退院後十分な情報を主治医、看護師、薬局と情報を共有ししている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化、看取りの指針等の説明を行う。看取り期は家族や主治医、看護師を交え、医療面や生活面の支援について話す場を設けている。また、ケアプランの更新時や重度化した際には改めて意向を確認し書面に残している。事業所として出来ることを十分に説明し、共有できるよう心掛けている。	重度化に向けた説明及び同意書を確認しています。看取り期は家族や主治医、看護師を交え面談をし、意向を確認して書面に残しています。最近慢性腎不全の利用者が施設内で、家族と過ごす時間も作り、職員が傍に付き添って看取りをした事案がありました。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について定期的に実施訓練を行っている。連絡網、救急車要請の仕方を見えるところに提示している。月一回、防災意識を高めるために防災に関する知識や情報を動画や書面で職員間で共有し、クイズ方式にするなどで全職員に配布している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年3回実施。コロナ禍の為、消防署とは電話にて報告と意見を聞き報告書のみの提出している。防災訓練後、報告書にまとめ課題や問題点を明確にし改善している。アクションカードを作成し指示を明確にどの職員も動けるようにしている。参加出来なかった職員には毎月のミーティングで報告し情報を共有している。地域との協力体制についてはコロナ禍で話し合いが出来ていないが、町内の歳末パトロールで防災活動に参加し、地域との関わりを持ち、顔なじみの関係を作っている。	防災訓練を年3回実施。コロナ禍の為消防署へは電話にて意見を聞き報告書のみ提出しました。実施後の課題・気付きを書面にまとめ、アクションカードの作成で、職員の担当役割、具体的行動が分かりやすく示され、職員全員情報を共有しています。地域との協力体制はコロナ禍で話し合いができませんでした。	コロナ前から職員が夜間の町内見回り活動に参加し、町内秋祭りで販売ブースを担当するなど、地域と顔なじみの関係を作っています。 今後も地域との関わりが継続し、利用者を巻き込んでの更なる活動へと進むことを期待します。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重し、本人の様々な表現を受け止め一人一人の状況、気持ちに応じた対応を心掛けている。生活習慣の違いや病状を理解した上で職員の関わり方を毎月の会議にて振り返っている。	介護事業所職員テキストを使い、 個人情報保護やプライバシーについて研修しています。サービス評価表で 利用者毎に短期目標、サービス内容を備考・考察しています。不適切ケアチェック表を作成しています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で小さなことでも自己決定ができるように、その方に合った選択肢を用意し、決定する時には本人のペースを大切に考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の身体状況、精神状況に合わせた過ごし方を個別におこなっている。個別に居室で休む時間をとったり、籠りがちな場合は声かけに配慮しつつも他者との関わる時間を演出している。食事時間も個人にあわせた対応を心がけ、介助を行いながらも出来る限りご自分のペースで食べることを目指している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを大切にして洋服は着ている。ご家族からご用意頂く事もある。定期的に2カ月に1回の訪問美容を受けて頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材の買い物、畑で育てた野菜を収穫し、調理、盛り付け、テーブル拭き、配膳、下膳時に無理のない範囲で参加。コロナ禍のため室内で出前やバイキングなどを取り入れ、1，2か月に1回イベント食を楽しんでいる。	利用者が食事を楽しめるよう、普段のおやつ作り、行事の際は出前寿司やバイキング形式を取り入れ職員と利用者が協力して楽しむ事があります。 職員は、利用者が無理のない範囲で野菜の収穫や調理、片付けなどの手伝いができるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすい形態や食がすすむよう好みのものを提供。必要がある時は嚥下検査を行い、その方にあった形態を職員間で情報を共有している。チェック表に水分量や食事量を記入し必要量が摂れているか把握するようにつとめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、口腔内の状態によっては歯科医に繋げている。又、歯科衛生士協力を得て対応の難しい入居者の口腔ケアの指導、助言を受け、技術の向上に努める。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、表情や動き等で排泄状態の把握に努め、職員間で共有している。水分や食物繊維をとりトイレでの自然な排泄を促している。	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの表情や動作を把握し、能力に応じた声かけや誘導介助を行っています。 排泄失敗した利用者には気持ちに配慮した声かけをしトイレに誘導しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、リハビリ体操を行うなど適度な運動を行い、起床後に水分を摂ったり、乳酸菌食品を定期的に摂るなど、なるべく緩下剤に頼らない対応を心がけている。必要時、看護師に相談しながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を活用し週2回以上の入浴が行われるように配慮している。季節に応じた菖蒲湯やゆず湯などを取り入れ、夏場には雰囲気を楽しめる足湯イベントを行っている。入浴時間は本人の希望や状態で温度を調整するなどして決めるよう心掛けている。入浴を好まない方には、手浴足浴、入浴時間をずらす等工夫している。又、羞恥心の配慮で必要時には同性介助を行っている。	身体保清実施表（入浴・体温・介助者）を活用し、利用者一人ひとりの希望や状態により入浴が楽しめるよう、時間や温度調整をし手浴・足浴なども取り入れています。必要時には同性介助を行っています。 季節に応じた菖蒲湯やゆず湯なども楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息、就寝時間は本人の希望や状態に合わせている。入浴後や前日に不眠だった場合など必要時には付き添いや誘導によって居室へご案内したり、リビングのソファーで休んで頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者に処方されている薬情をファイルし常に見ることが出来る場所に保管。薬剤師から副作用等の注意点を受け職員間で共有。薬が変わった時は伝達ノート、記録、月次記録、申し送りにて必ず共有するよう努めている。又、薬剤師や看護、主治医に相談し、入居者の状態に合わせた内服の検討を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月のカンファレンスで話し合う機会を設けている。全体でのレクリエーション以外に、個々の状態に合わせ提供している。デッサン、生け花、野菜の収穫、調理などを個別に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	健康状態や天候を考慮し気分転換にコロナ禍の為、庭の散歩を心掛けている。 入居者の要望にそった食事会を開催し、季節行事は必ず行っている。その様子はSNSで発信し、月の報告書に写真を掲載して家族へも報告。できる限り希望に応じた対応を心がけている。	利用者の健康状態や天候に考慮し、日常的に庭の散歩を心掛けました。また職員と共にリハビリのための歩行訓練や体操、ボールアクティビティなどを行っています。季節の行事と併せてその様子はSNSで発信し、だんらん通信へも掲載して家族に報告しています。	今後、家族の協力のもと利用者の希望する場所へ外出が出来るように支援することを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族の希望により所持している入居者がいる。所持することで尊厳と安心感に繋げるよう心掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所内の電話を利用して、希望時に取次などの支援をしている。又、家族と絵ハガキのやりとりをして頂けるよう、職員が環境作りをし、本人の意欲や楽しみを見出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はリビングでの生活を主体とするが、ご本人の気分や状態によって居室での生活時間も増やしている。馴染みの居場所を作り、互いに気のままに自由に過ごせるよう環境を整えている。室内の温度と湿度管理を行い、冬季は加湿器を設置し乾燥を予防している。家事も会話しながら行っている。季節の花を庭で見る事ができ、テラスにも植えることで、さらに季節感を身近に感じて頂いている。また壁面飾りの等で季節を感じる工夫をしたり、毎月花を用意し、室内でも季節を楽しめる様にしている。	利用者が多くの時間を過ごすリビング、居室が居心地のよい場所となるよう温度や湿度管理に配慮し、壁面飾りや室内に花を飾ることで季節を感じる工夫をしています。利用者が馴染みの居場所を作り、互いに自由気ままに過ごせるように環境を整えています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングにソファーを置いたり、エレベーターホールにテーブルセットを設置するなど、入居者が自由に過ごせる環境を作る様に心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や家具等使い慣れたものがあれば持参し、自宅と同じように居心地よく過ごせるように支援している。仏壇や写真、装飾、椅子などの設置をしている	利用者は以前から使い慣れたものや家具などを置き居心地よく過ごせるようにしています。花が好きな利用者の居室窓の外にプランターを置き毎日の水やりができるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内に手すりを設置、洗面台を入居者に合わせた高さを調節できるものを取り付けている。トイレや浴室、居室がわかるように貼り紙や目印なども付けている。		